

ブロイラーへの飼料用米多給技術の開発

畜産技術センター 龍田 健

研究期間:平成23年度～25年度(3年間)

目的:飼料自給率の向上、水田の有効活用のために
ブロイラーへの飼料用米多給技術を開発する

【成果1】: 鶏に適した飼料用米の形状は？

(全粒の粳米と玄米、粉碎の粳米と玄米を配合飼料中のトウモロコシと30%代替)

- 結論: 全粒粳米が経済的に最も優れる
全粒玄米が発育性に最も優れる

【成果2】: 配合飼料中のトウモロコシと代替可能な全粒粳米と全粒玄米の最大割合は？

- 結論: 100%(配合飼料中の65%に相当)



筋胃
比較

粳米100% トウモロコシ100%

- 効果: 飼料費が12%減少、筋胃重量が1.5倍増加(全粒粳米)
生産性が10%向上、オレイン酸割合が12%増加(全粒玄米)

【成果3】: 鶏に給餌可能な最長期間は？

- 結論: 飼育全期間(1～49日齢<出荷>)
- 効果: 飼料費が42%減少、筋胃重量が1.5倍増加(全粒粳米)
生産性が10%向上、オレイン酸割合が18%増加(全粒玄米)

【試験の成果】

ブロイラーには配合飼料中のトウモロコシ(65%含有)の全量を全粒粳米または全粒玄米で代替して飼育全期間給餌できる

【今後の取り組み】

- 現在、但馬養鶏農協で飼料用米を試験的に給餌している
- 今後、「飼料用米を活用した鶏卵・鶏肉ブランド化推進協議会」などを通じて普及を図る